

みのり NEWS

外部向け情報誌

生活介護・就労B型&グループホームの情報誌

2020
10/11

10・11月号

社会福祉法人みのり福祉会
令和2年9月30日発行

【発行】社会福祉法人みのり福祉会
多機能型支援施設みのり・グループホーム

<本部>

〒350-1305

埼玉県狭山市入間川 3273-23

TEL: 04-2954-8566

FAX: 04-2954-2646

e-mail: t-minori@bell.ocn.ne.jp

HP: <http://www.minori-fukushi.or.jp/>

ホームページはこちらから！
ブログも随時更新中！



あおぞらいちば - 音楽のちから -

「音楽のちから」という言葉を、テレビで、ラジオで聴くことが多くなってきているような気がしています。

絆という言葉が多く取り上げられ表舞台を歩いている中で、コミュニケーションを避けていかなければならない、このコロナ禍の現実での矛盾した閉塞感や先が見えない不安感に包まれている中、音楽のちからを求め、必要としているのでしょうか。

音楽は、過去の自分のシーンと重なることがあります。

自分が体験したことのあるシーン、夢に描いていたシーン、好きだった本や言葉、記憶に残る映画、想い描いた夢などと重なります。

先日、テレビで音楽番組を見ていた時のこと、さだまさしさんの「いのちの理由」という歌を初めて聴き、引き込まれました。金子みすゞに「私と小鳥と鈴と」という代表的な詩がありますが、私がこの仕事を通じながら、振り返ることがあるたびに頭の片隅に、時には前面に出てくる、根幹を成す歌です。

前記の「いのちの理由」という歌を聞き入ったとたん、私の中では金子みすゞが浮かび楽曲と詩の内容がリンクしました。近くにいた娘はこの歌を知っていて、以前コロナ禍のテレビの特集の中で取り上げられていたそうです。インターネットで調べると、2009年に発表されていた楽曲で、浄土宗からの依頼で作成された、法然共生をイメージした曲であるとのことでした。大乘仏教の“広く人々を、命あるものを救う”思想と金子みすゞが合致したことは必然だったのでしょうか。

夢想、

私たちは“広く人々を救う”ことはできません。できないことが必然であり、現実であるとも考えています、しかし、同じ思想を持つ人たちが、傍にいる「誰か一人に救われ、誰か一人を救う」ことができ、そんな人たちが多く集まれば“広く人々を救う”ことに近づけるはずです。

理事長 坂本光雄

懇談会が開催されました

9月4日に狭山市民会館で家族懇談会が開催されました。

ご来場いただいた利用者ご家族の皆様、ありがとうございました。





どんぐりの森保育園へ
みのり福祉会で制作した
ビーズ作品やぬいぐるみを
プレゼントしました！

さをり織りが 始まります

先生をお招きし、さをり織りの機械を調整して頂きました。機械の状態が良いとのこと、9月中旬から生活介護の日課としてご利用者様が参加されています♪



10・11 月の予定

- ・ 防災訓練
- ・ 健康診断
- ・ 生活介護モニタリング



今回の広報誌タイトルは、生活介護ぐろーりー班
田中智久さんに書いて頂きました！！
今後も色々な方に書いて頂く予定です♪

【多機能型支援施設みのり】

生活介護・就労継続支援B型
支援員：準職員(契約・パート)
添乗員：準職員(パート)
問合せ先：04-2954-8566
担当：坂本

【グループホーム】

支援員(夜勤スタッフ)：準職員(パート)
問合せ先：080-2212-0131
担当：坂本

【施設利用】

多機能型支援施設みのり
生活介護・就労継続支援B型
募集をしております。
問合せ先：04-2954-8566
担当：原田